

# 伝承と創生の教育

～ 「磨き合う子の育成」 ～

金沢市立野町小学校

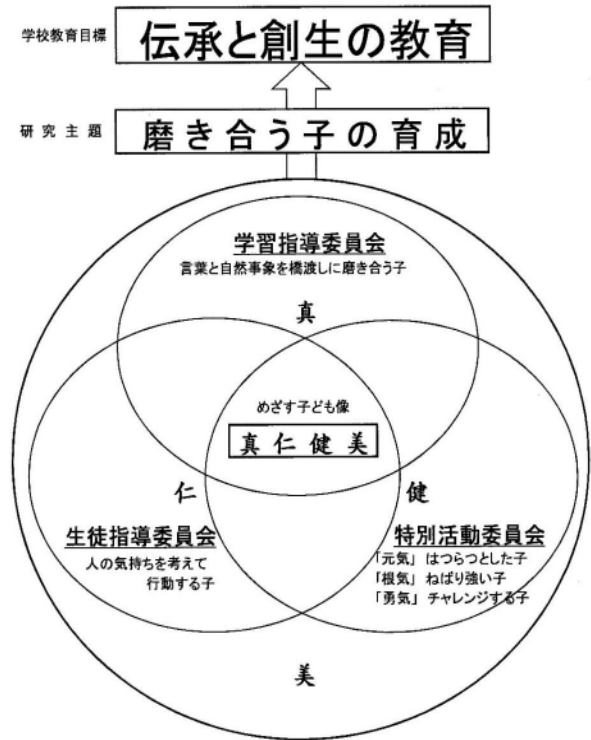
## I はじめに

加賀藩の仏具や和菓子、加賀友禅などの文化を創出し、加賀藩の産業を支えてきた地域の真ん中に学校がある。校区には、古きよき文化が息づき、今日にまで継承されている。

本校は、財産である校区の伝統、校風及び教育課程を今現在に継承し、未来につなぐ。その過程でよきものは受け入れ、さらなる教育の不易と普遍を創り出すため、学校教育目標「伝承と創生の教育」を掲げ、人間像「真仁健美」をめざしている。

また、教師と子ども、子どもと子どもがともに学び、高め合う最高位の学びの姿を「磨く」とし、研究主題「磨き合う子の育成」に取り組んでいる。<図1>

<図1> 教育活動の全体構想図



## II 研究の概要

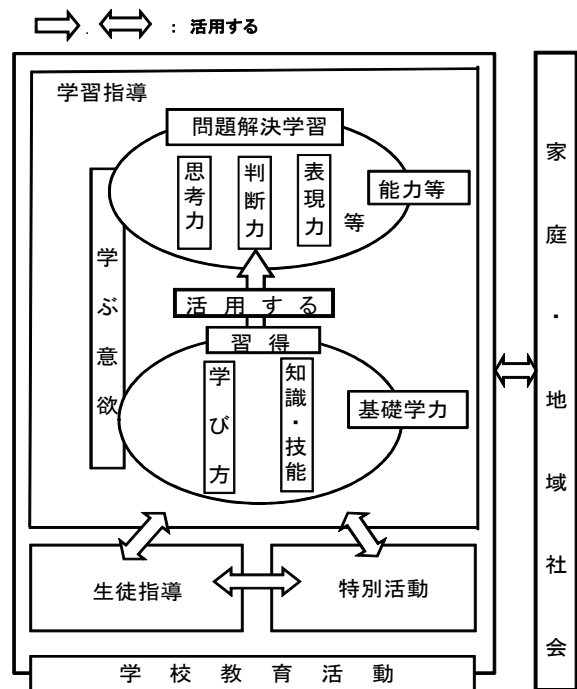
本校では、学習における「活用する」を「基礎的、基本的な知識・技能及び学び方（以下、**基礎学力**という）を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の能力（以下、**能力等**という）を培うこと」と定義した。

したがって、基礎学力の習得をねらった授業と基礎学力を活用して能力等を培う授業の展開は異なる。具体的には、評価規準の4観点に沿った指導と評価の一体化をめざした「メリハリのある」授業を展開する。前者は教師主導で「教え」、子どもにできた、わかった喜びを体感させる。後者は、子ども主体の「考えさせる」学習を展開し、磨き合う喜びを実感させる。<図2>

加えて、生活科、総合的な学習の時間（以下、**総合**という）では各教科等で培った能力等を活かし「探究する」学習を展開する。

以上の考え方を学習指導のみならず生徒指導や特別活動など、全ての教育活動に適用している。

<図2> 「活用する」の構造図



### Ⅲ 研究の内容と具体的取組

#### 1 基礎学力を習得させる

授業で知識、技能及び学び方を指導するほかに習得3本柱でその徹底を図る。

##### (1) 「野町習熟タイム」の実施

朝の8:15からの20分間、担任と管理職、級外の複数体制で習熟指導に関わる。計算、漢字については、時間制限による「習塾」「熟練」「熟達」の到達目標を設け、2月には全校朝礼で成績優秀者に認定証を渡している。

その他、8:32から全校一斉で漢詩、文語文を含む詩の暗誦・朗読に取り組んでいる。〈実演〉

##### (2) 「放課後学習教室」の実施

「野町習熟タイム」等においても習得できない子どもについては、全ての教科について、毎週月・水・金曜日、低学年は15:45まで、中・高学年は16:30まで、図書室でボランティアの力を借りて補充学習をする。〈写真1〉

〈写真1〉「放課後学習教室」の様子



##### (3) 家庭学習の励行

漢字、音読、計算の復習を中心に家庭学習（最低15分×学年）を出し、学びの習慣化を図っている。

#### 2 活用する力を培う

##### (1) 「メリハリのある」授業の実施

前述したように、「考えさせる」授業では、習得した基礎学力を活用して、課題発見能力、思考力・判断力、表現力、問題解決能力等の能力を培うため、問題解決学習を展開する。

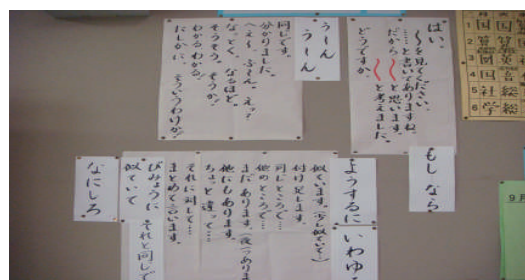
教師は、週案に評価規準の4観点を明記して計画を立て、板書案に基づいて授業を展開する。

##### (2) 「話型」の活用

問題解決学習で、子どもが発する独り言やつぶやきを、教師は高いアンテナでキャッチし、磨き合うための活きた話型として取りあげ、教室前面にも短冊で掲げ、子どもの表現力をつける。

教師は、話型を逐次更新するとともに、進級学年にも伝承する。〈写真2〉

〈写真2〉教室に掲示された話型



##### (3) 語彙力を培う

全学年が国語辞典や漢和辞典をもち、国語科の学習以外にも常備し、語彙力を培っている。

##### (4) 情操を養い表現力を培う

語彙を増やし、コミュニケーション力を高めるため、「マイ・ブック・バッグ」を机の横に常備させ、給食配膳の待ち時間、授業の隙間の時間には読書をする。

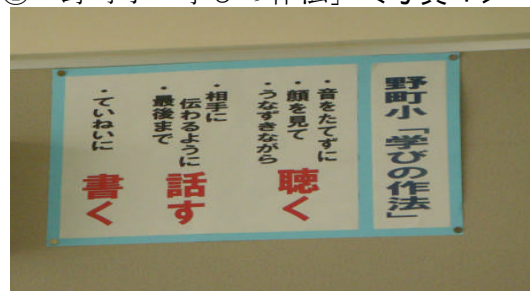
また、それぞれの季節ごとに「今季の芭蕉さん」と題して全校で俳句づくりに取り組んでいる。〈写真3〉

〈写真3〉「秋の芭蕉さん」



##### (5) その他の取組

###### ① 野町小「学びの作法」〈写真4〉



- ② 自主研修、互いに授業を見合う「ぶらり参観」や児童理解、授業、教材等の悩みごとを相談する「かけこみ相談室」の設置<写真5>

<写真5> 「かけこみ相談室」の様子



### 3 探究する力を培う

#### (1) 概説

金沢市の施策「歴史資産を生かしたまちづくり」及び本校の教育目標「伝承と創生の教育」を実現するため、総合び生活科で、地域に残る伝承遊びや伝説を発掘したり、地域にある有形・無形文化財を調べたりして、よりよい地域社会を築いていくために解決すべき課題を探究する。<図3>

#### (2) 目的

21世紀を担う子ども達が、「知識基盤社会」を力強く生き、持続可能な社会を形成していく力をつけるため、「地域」とそこに生きる「人」そして「自分」を学習対象とし、「地域社会のあり方」や「自分の生き方」を探究する。

#### (3) 評価規準

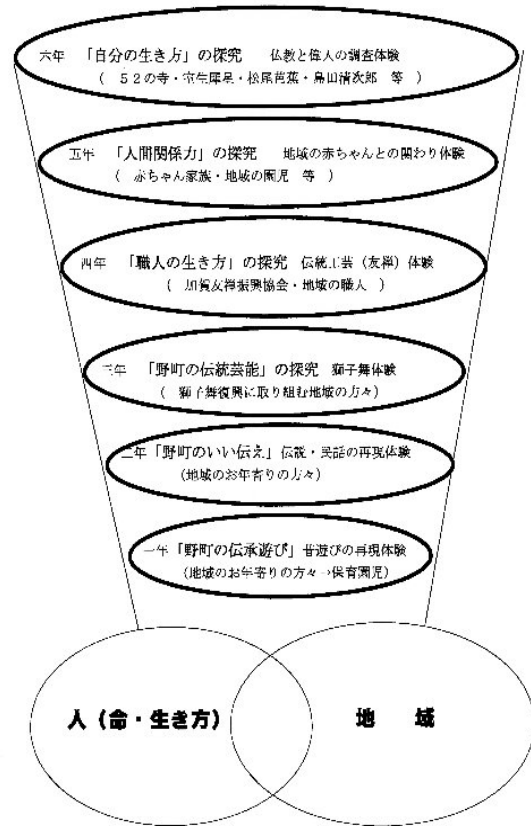
- ・探究への〈関・意・態〉
- ・探究する過程で培う〈思考・判断〉
- ・探究に必要な〈技能・表現・処理〉
- ・探究の礎となる〈知識・理解〉

#### (4) 実施内容と学年<写真6~11>

- 1年 「野町の伝承遊び」の探究
- 2年 「野町の言い伝え」の探究
- 3年 「野町の伝統芸能」の探究
- 4年 「職人の生き方」の探究
- 5年 「人間関係力」の探究<実演>
- 6年 「自分の生き方」の探究

### <図3> 探究学習の全体構想

キーワード  
・豊かな体験活動 ・探究的な学習 ・生きる力 ・「人」 ・「地域」



<写真6> 1年「野町の伝承遊び」  
地域のお年寄りにならない、園児に教える。



<写真7> 2年「野町の言い伝え」  
地域の人にならない、後世に残す。



<写真8> 3年「野町の伝統芸能」  
獅子舞を復興し、次世代に伝承する。



<写真9> 4年「職人の生き方」  
職人にならない、職人さんの生きざまを自分の  
生き方の参考にする。



<写真10 5年「人間関係力」>  
地域の赤ちゃんや園児にならない、人と人との  
関わりと自分の存在を確認する。



<写真11> 6年「自分の生き方」  
僧侶や地域の偉人から生き方を学び、自分の  
生き方を探る。



#### IV 成果と今後の課題

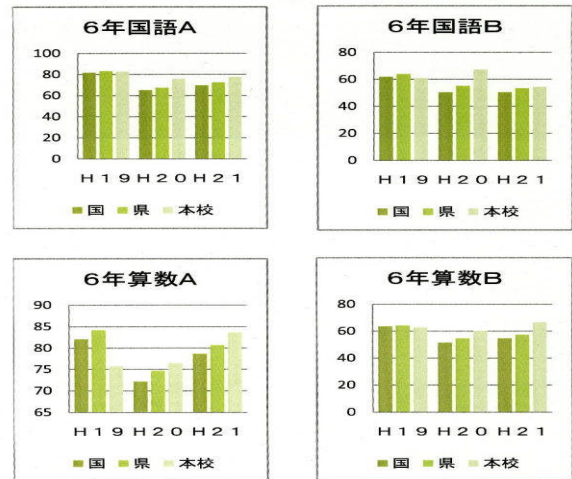
##### 1 取組の成果

子ども達の基礎学力等については、研究を始めた一昨年度から徐々に身につけてきていると考える。<グラフ1>

また、生徒指導、特別活動等においても「習得させる」、習得させたものを活用するという教育活動をとおして子ども達に生きる力が育まれていると考える。

さらに、生活科、総合における探究学習では、地域教材の資源（人・物）の発掘と蓄積が進むとともに、学校と地域の方々や保護者との「絆」が深まるなど、成果があがっている。

<グラフ1> 国の学力テストの推移



##### 2 今後の課題

今後、教職員が一丸となって築きあげてきたことをきめ細かく確実に伝承していくことが求められる。

そのためにも、教育課程を年次的、段階的にしかも教科を絞り実践検証していく必要があると考える。<表1>

<表1>教育課程編成計画

| 年度    | 金沢・野町スタンダード編成計画                       |                        |                 |
|-------|---------------------------------------|------------------------|-----------------|
|       | 窓口                                    | その他                    |                 |
| H20年度 | 国語科野町スタンダード構築                         | 算数科野町スタンダードを構築         | 地域に生かされ、地域      |
| H21年度 | 理科野町スタンダード構築                          | (適宜、音楽科、図工科、体育科等の教科および | を生かす生活科、総合的な学習の |
| H22年度 | 社会科野町スタンダード構築                         | 道徳等を見直す                | 時間を構築           |
| H23年度 | H23年度以降は、同三年サイクルごとに教育課程の見直しをかけ、再構築を図る |                        |                 |
| ↓     |                                       |                        |                 |